

ばれっと

2007
7月

No.95

レターケース、ロッカーの申し込みが始まります！

■ 目次 ■

- P. 2～3 すぽっと らいと アフリカと関わり続けて10年
「アマニ・ヤ・アフリカ」
- P. 4 サポセン日記
- P. 5 ミニ サポダス
サポ本を読もう！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト 2007年度 サポセン事業まるわかり！
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など



～ サポセン窓口風景 ～
こちらはレターケース。
スタッフが郵便やFAXの
取次ぎを行っています。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

今回は、アフリカと関わり続けて10年を迎えようとしている団体「アマニ・ヤ・アフリカ」にスポットをあてます。代表の石原邦子さんと、木村碧さん、吉村松二さんの3名にお話を伺いました。



左から、石原さん、木村さん、吉村さん

■きっかけは「巡り合い」

仙台とアフリカ。決して近いとは言えない2つの地を結ぶきっかけはなんだったのでしょうか? 「巡り合ってしまったんですよ。」

きっかけを尋ねたスタッフに、代表の石原さんは、そう笑顔で語り始めました。

石原さんが初めてケニアを訪れたのは1998年。当時、現地のスラムでフィールドワークをしていた息子さんを訪ねることが目的でしたが、石原さんはそこで、戦後の日本を思わせるような光景と巡り合います。衛生状態が悪い上に、仕事もなく、食べることもさえままならない人々。石原さんは「自分にできることが何かあるだろうか」との思いを感じました。この思いこそが、アマニ・ヤ・アフリカを立ち上げるきっかけでした。

■「自分にできること」を続けたら・・・

日本に帰った石原さんは、早速、「自分にできること」として自分の目で見たことを伝えるため、アフリカ滞在の報告会を開きました。この初めての報告会には、雨の中52名の参加があり、入場料と募金で7万円が集まりました。この7万円で、教科書をリサイクルするための製本機をケニアへ届けることができました。その後の友人知人の協力もあり、「何かやれそうな気がして」活動を継続することを決めます。

ケニア在住の日本人を招いての講演会やケニアの民芸品の販売など、「自分にできること」をコツコツと重ね、1999年10月には勾当台公園・市民広場の「わいわい祭り」に出店。ここで27万円もの売上があがり、なんと、この売上金でスラムに学校を建ててしまいました。

この学校建設が、その後のアマニ・ヤ・アフリカの方向性をつくり、スラム内の小学校の先生に給与を出すプロジェクト「マサイ大作戦」、ケニアの人たちの仕事を創り出すフェアトレード商品の開発・販売、アフリカを知ってもらうために現地を実際に訪れる「スタディ・ツアー」の開催など、次々に活動を広げてきました。

■ケニアの人たちから学ぶ

活動を続ける中では、フェアトレードのために発注したものが納品されないなど、トラブルもあるのですが、失敗の中から話し合い、現場で人と接しながらお互いを高めていくのがアマニ・ヤ・アフリカ流。日本の常識を押し付けるのではなく、相手のできることを聞き出して、それを伸ばしていくことで信頼関係を結んでいきます。

ケニアの子どもたちは元気で、喜びにあふれ、心の豊かさを感じさせてくれます。ケニアの人たちから学び、元気をもらえることが、活動の原動力にもなっています。

スタディ・ツアーの参加者の中には、「かわいそうな人たちを励ましてあげたい」という気持ちから参加してみたものの、その気持ちがおごりだったと気づく人もいます。スタディ・ツアーには、アフリカを知るという目的だけでなく、「なにかできるだろう」と思っていた人が、実体験を通じて、自分に何ができ、何ができないのかを発見する「自分探しの旅」の一面もあるわけです。

■継続する力

「10年前と比べて、何か変わったかと言えば、何もよくなっていないんですよ」石原さんは、約10年にわたる活動を、そう振り返ります。

けれども、10年前と何も変わらないというのは、逆にいえば、10年間、変わらぬ生活を維持するための手助けができたということになります。アマニ・ヤ・アフリカの活動は、子どもたちへの奨学金や、小学校の先生の給与、仕事の提供など、始めた以上、途中で止めるわけにはいかない責任ある事業が多くあります。継続することこそが、最も大切なわけですが、みんなの応援と、みんなが「アフリカを応援している」という気持ちをもってくれていることが活動を続ける一番の励みになっているそうです。

団体紹介

「アマニ・ヤ・アフリカ」

ケニアへの教育支援（奨学金、給食費支援など）、生活自立支援（フェアトレード商品製作、援助物資の持参）、ケニアの周知活動（ツアー主催、講演など）。

<団体連絡先>

〒982-0023

仙台市太白区鹿野2丁目18-7-706

TEL/FAX 022-247-4225

e-mail mamaishi@guitar.ocn.ne.jp

代表 石原邦子



■サポセンがアフリカー色に！

10周年を記念するイベント「アマニ・アフリカ祭り」が、先日5月26日に、サポートセンターで行なわれました。「サポートセンターは気軽に使えるんですよ。去年移転してからシアターもできて、その上、場所も便利ですし。」と、石原さんはサポートセンターの魅力を分析します。

今回の「アマニ・アフリカ祭り」では、地下の市民活動シアターで講演会やアフリカ音楽のライブ、交流サロンの展示スペースで写真展、セミナーホールでフェアトレード展示即売会が行なわれました。「今日は一日アフリカ日和」というキャッチコピーの通り、サポートセンターがアマニ・ヤ・アフリカー色になったような一日でした。

このように、すでにサポートセンターの機能をフル活用しているアマニ・ヤ・アフリカですが、団体の今後を見据えた希望が次々に出てきました。

「今後は、意見と行動が伴う人材や、専門技術を持っている人材と出会えるような機会が欲しいと思っています。また、これまでは自分の経験を元に自分でやってきたけれど、経営戦略に関する講座を受講してみたいですね。」



■企業との提携推進

アマニ・ヤ・アフリカの次なる目標は、フェアトレードの安定化、会員（サポーター）制度の充実、人材の獲得・育成。活動継続のためにしっかりした基盤づくりを必要としています。

フェアトレードを安定化するためには、企業との提携を継続・拡大していくことを考えているそうです。これまでに開発したフェアトレード商品に、「日本酒バッグ」があります。日本酒を入れるのにぴったりなサイズのこのバッグは、老舗酒蔵「一ノ蔵」との提携で生まれました。アフリカ特有のビビッドな色使いの布と日本酒という組み合わせがとても斬新な一品です。企業との提携には、一定数量の注文を確保できるというメリットもあり、今後、このような商品を増やして、ケニアで働く人たちの収入の安定化をはかることを目標としています。

「活動が続けていくためには、次の世代へ引き継いでいかないと。」

そう語る石原さんの隣には、「アマニ・アフリカ祭り」の実行委員長を務めた若い木村さんの姿が。石原さんの思いは、若い世代へと受け継がれていくことでしょう。

今後のアマニ・ヤ・アフリカの活躍が楽しみです。

（担当：太田 貴）

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに使えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ ～ レターケース ～

レターケースってなんだろう？

サポセンにあるレターケースとは、市民活動団体宛に送られてきた郵便物・FAXの一時保管ができるボックスです。サポセン事務局が取り次ぎをしています。団体に事務所がなく、個人宅を連絡先にしたくない場合、レターケースを使うと便利です。連絡先を個人宅にしないことで、他のメンバーが団体の事務局の活動に触れやすくなるため、メンバーの誰かに活動の負担がかかるということが避けられます。また、団体のメンバーの間で連絡をスムーズに行いたい場合などにも活用できます。

その他の便利な使い方としては、レターケースを利用している団体であれば、他団体のレターケースへチラシの投げ込みをしてイベント等のPRをすることもできます。

レターケースは1階に168個あり、5月現在93個が使われています。A4サイズの用紙が入る大きさで、無料でお使いいただけます。

なお、宅急便や書留などの受取印が必要なもののや、レターケースに入りきらない大きさのものは、取次ぎできませんのでご注意ください。また、危険物や生鮮食品など他に迷惑を及ぼす恐れのあるもののほか、現金や貴重品類の収納もご遠慮ください。

レターケースを使うにはどうしたらいいの？

1階事務局にレターケース申込書と団体紹介シートを提出していただく必要があります。

(申込書と団体紹介シートはサポートセンターHPよりダウンロードも出来ます。)

使用期間は9月1日から8月31日までの最長一年間ですが、更新も可能です。

ご利用にあたっては、活動報告書を半年に一回提出していただきます。これは、市民のみなさんに公開されるものです。団体が取り組んできたことをどんどん書き込んで、効果的にアピールしましょう！

使っていた人に突撃インタビュー！

—— 5月25日に雨の中サポートセンターへ来館していた元サポートセンターのスタッフで『あーすらいふ仙台』の田中聡子さんにお話を聞いてみました。

スタッフ：レターケースをどのように使っていますか？

田中さん：団体の連絡先として、メンバー同士の連絡先として活用しています。

レターケースの中にメンバーへの伝言を入れておいたり、メールで送ることの出来ない原稿のチェックをしてもらうために使っています。

スタッフ：レターケースを使ってみて便利なことはありますか？

田中さん：個人の住所を団体の連絡先にするのではなく、サポートセンターを団体の住所に出来るので便利です。それと、活動場所、連絡先が一緒なのでわかりやすく良いです。ほかの団体の方に活動場所を教える時に説明がしやすいです。

団体のチラシをレターケースに入れておくと、サポートセンターで活動をするときにすぐ取り出せて楽ですね。

スタッフ：使用頻度はどのくらいですか？

田中さん：私は1ヶ月に1回～2回程度ですが他のメンバーもそれぞれ使っていると思います。メンバーがサポートセンターに来たらレターケースを確認するという習慣が出来ています。

スタッフ：レターケースに何か一言ありませんか？

田中さん：いつまでもあって欲しいです。



仕事帰りに、サポセンに立ち寄りレターケースをのぞく田中さん

—— スタッフの質問にも気さくに答えてくれた田中さんでした。（担当：豊泉 昭子）

ミニサポダス

◆サポセンの利用状況を
毎月テーマを変えてお知らせしています！

■レターケース ～いったいどれくらい活用されているの？～

サポセンには、団体宛の郵便物・FAXの一時保管や、メンバー間の連絡に使えるレターケースがあります。今回は、平成18年度のレターケース使用団体数や取次ぎ件数を紹介しながら、利用の傾向をご報告します。

昨年は移転のため、8月を1ヶ月間休館としていました。そのため、移転を機に団体の連絡先をレターケースから事務所や自宅へ移す団体もあり、レターケース使用団体数が減少しました。今年4月末の時点で使用団体数は95団体となっていますが、移転後半年で減少前の98団体に近づいてきました。最近では立ち上げたばかりの団体の申し込みが増えています。

郵便物とFAXのレターケースへの取次ぎ件数は、月平均243件になります。4月～6月の取次ぎ件数が増加するのは、一因として総会への出欠の案内が集中するからと考えられます。また、団体によってはイベントの申込先をレターケースに設定する所もあり、利用数が月により大幅に増減します。

(担当：内川 奈津子)

●レターケース使用数 (設置数：168個)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 使用率
使用数	98	97	98	98	※	84	86	86	86	89	94	92	55%

※移転のため一時使用停止

●レターケース取次ぎ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
郵便	262	324	242	186	60	233	119	101	93	162	143	160	173.8
FAX	37	17	122	102	23	98	68	74	77	61	82	76	69.75
計	299	341	364	288	83	331	187	175	170	223	225	236	243.5

●新規申込を受け付けます！

受付期間：7／6～24

9:00～21:00 (日・祝日は17:00まで)

同じ期間中に、ロッカーの使用団体も募集します。申込方法はレターケース、ロッカーともに同じです。申込書と団体紹介シートを1階窓口へご提出ください。

サポ本を読もう！

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介！



定年後の
ただならぬオジサン
著者：足立紀尚
発行：中公新書ラクレ
定価：760円(税抜)

団塊世代がいつせいに定年を迎える2007年問題」の真只中、一個人が定年後をどう生きるかという問題について、また、大きな関心が寄せられています。冒頭で著者は、定年後は、本当に自分が好きなことをして過ごせばよい、などという人がいるが、これは絵に描いた餅である。と言いつつ切ります。そして、個人が社会と積極的に向き合って、社会に貢献することによって個人も生かす、それが、これからの定年シニアにとってのあるべき社会との関わり方ではないか、と提案しています。

全国のNPOなどで活躍するただならぬオジサン・オバサン」の豊富な活動実践例をもとに、居場所」「仕事」「知恵と技」「若い」「専門家」という5つの切り口から、定年後の生活設計術を指南します。仙台で活動する団体「シニアのための市民ネットワーク仙台」も紹介されています。

定年前後の人たちがやそんな人たちが応援する側にもおすすめの、やる気と勇気が出る一冊です。

担当 真壁 さおり

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

1階受付のリニューアルおめでとうございます。すてきです。
(情報サロン)

お知らせいただきありがとうございます。電球が切れた際はスタッフがすぐに交換をしておりますので、お気づきの点がありましたら、事務局までお声がけください。

ありがとうございます。
5月に1階のレイアウトを変更しました。今後も快適にご利用いただけるような環境づくりに努めて参ります。

4Fのお手洗い(女性用)の電気がひとつ消えていて暗いです。直して欲しいと思います。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

2007年度 サポセン事業まるわかり！

より多くの方に、市民活動・NPOについて知って、踏み込んでもらえるように。

ここをステージに活躍の場を広げていただけるように。

多様なメニューを用意し、これから活動する人、既に活動している人、それぞれのニーズに応えられる事業を展開します。

●人材育成事業

□NPOいろは塾

タイトルどおり、NPOの基礎・基本をサポセンスタッフが90分でお伝えする講座。サポセンを巡るガイドツアーも引き続き実施します。注目は、今年度から新たに開講する「シニア向けいろは塾」。

9/13、10/2、12/4、2/5（シニア向けは2/5）

□テーマ別講座

立ち上げたばかりの団体も円熟期の団体も、運営していく上でつまづいているのは同じ石かもしれない。そんな石を取り除くため、4つの視点から団体運営の課題解決策を探る、全4回の講座です。

立志編6/19、同志編8/28、展望編10/23、見返り美人編1/25

□ゲスト講演、交流会

団体のリーダーとして活躍されている方を招いての講演会と、NPO団体同士の交流会を開催。8月には環境、11月には国際協力の分野からゲストをお迎えします。団体の活動モデルを描くための参考にしてはいかがでしょうか。

8/4、11/27

□インキュベート相談

事務用ブース入居団体の支援として、年に2回個別相談を実施します。

□協働相談所

NPOと行政の協働事業についての悩みにお応えする相談所です。月に1回（第三水曜日）開きます。

●誘導・啓発事業

□サポセン出前プロジェクト

市内各区で1ヶ所の市民センターへ出かけ、地域で活動しているNPOを紹介したり、市民活動を知ってもらうためのミニ講座を行ったりします。みなさんのお住まいの近くに出前した際には、ぜひお出かけください。

□ボランティア相談会

年に2回、ボランティアを募集する団体とボランティアをしたい市民が出会う場所を設けます。7月はシニア向け、11月はせんだいCARESなどとの連携を図り、全市民向けの相談会を開催します。

7/1、11/11

●ネットワーク推進事業

□ネットワーク推進フォーラム

互いに手を組んで事業を実施したことのあるNPO・企業・行政の三つのセクターからゲストを招いて、協働事例の紹介をします。

8/25

□せんだいCARESとの連携

仙台で活躍するNPOを市民に知ってもらうと、年に一度キャンペーンを実施しているせんだいCARES実行委員会と協力します。サポセンでも“せんだいCARES DAY”を開催します。

10/27～12/2

●その他の事業

□市民活動シアター1周年記念イベント

昨年9月にまちなかにオープンしたシアター。パネルディスカッション形式で、シアターの役割についてゲストに語っていただき、シアターの可能性を探る機会とします。

□タイアップ企画

仙台のアートシーンで活躍されている方々にご協力いただき、演劇、映像、インクルーシブアート、ワークショップなどを毎月、市民活動シアターで開催します。様々に表情を変えてゆくシアターを、体感してください。

◆ご紹介したイベント・講座の申込用紙は、開催日のおおむね1ヶ月前からサポートセンターのほか各公共施設、市役所1階市民のへやなどで入手できます。お問い合わせはサポートセンターへ。

イベント 紹介 7月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。ご希望の方はお問い合わせください。



開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
7/2～ ・ 7/3～	10:00 ～ 12:00	認知症予防を目指した「脳トレ塾」 簡単な読み・書き・計算 月曜コースと火曜コース	研修室2	2,000円(月4回) (事前申込必要)	NPO法人 日本脳トレーニング協会	Tel 022-373-1468 Fax 022-214-8551 (佐藤)
7/6	10:30 ～ 12:00	「七夕まつりのご案内」 親子で七夕づくりに 参加してみませんか？	研修室3	100円 (事前申込必要)	子育て支援 グランマ	Tel 090-5238-4544 FAX 022-721-7227 (松倉)
7/7	14:00 ～ 17:00	子どもの非行や荒れに親としてどう向きあえばいいのか？その苦しさを一緒に分ち合いませんか？	研修室1	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会	Tel 090-5235-4247 (野口りこ)
7/11	19:00 ～ 20:30	デザイン力UP講座ステップ編／ プロが教えるプロのやり方・発想	研修室2	1,000円 (事前申込必要)	メディアデザイン	Tel 090-3049-0613 Fax 022-224-5308 (千葉)
7/13	10:30 ～ 12:00	お母さんの為のリラックスタイム リンパマッサージを覚えてリラックスしよう。ティータイムもあり	研修室1	500円 (事前申込必要)	JRFA足市場	Tel&Fax 022-223-9023 携帯 090-7564-9831 (森 照恵)
7/16 ～ 8/15	開館 時間内	[5年間の軌跡]片平キャンパス近代 建築トラストファンド 片平キャン パスの建物保存活動の写真展	展示 スペース (5F)	なし (事前申込不要)	片平キャンパス 近代建築 トラスト ファンド	Tel&Fax 022-227-4174 (桜井)
7/29	10:00 ～ 13:00	アリスのおしゃべり会 子宮筋腫内膜症の当事者のみ参加可	研修室1	500円 (事前申込不要)	アリス	Fax 022-268-4042 (中村) ※ レターケース No.145と明記

● 展示のご案内 ●

◆サポセンでは昨年12月より、障がい者によるアートや、市民活動などから創作された作品の展示を、1階エントランスにて実施しています。

6月より、社会福祉法人千代福祉会が運営するアトリエ「ぽてとはうす」で制作された絵画・陶芸作品を展示しています。千代福祉会では、施設の利用者や地域の人たちに余暇の活動としてアトリエを開放し、外部の講師を招いて絵画教室・陶芸教室を開いています。

展示期間は8月末までの予定で、期間中に数回作品の入れ替えを予定しています。

サポセン玄関の自動ドアが開いたとたん、大きな絵が目飛び込んできますよ。ぜひご覧ください。

■作品、アトリエに関するお問い合わせ：社会福祉法人千代福祉会 知的障がい者更生施設 清風園 TEL：022-394-5205

お知らせ



■7月1日(日)、シニア活動支援センターがオープンします。

仙台市シニア活動支援センターは、定年を意識し始める50歳代後半以降のシニア世代の方が、地域の課題解決や事業創出のために行う活動を支援する総合窓口です。サポートセンターの3階に事務所と窓口を置きます。

窓口・電話で相談を受け付けるほか、専門相談員によるテーマ別相談(要事前予約)を月に2回、市民活動や起業など様々なテーマで学ぶシニアサロンを月1回開催します。

定年後に地域で活動したい、自分の経験を生かして活動したい、共に活動していく仲間がほしい。そんな想いをお持ちの方、お待ちしております。

仙台市シニア活動支援センター

TEL 022-217-3983 / FAX 022-217-3984

開業時間:【平日・土曜日】10:00~20:00

【日・祝日】10:00~18:00

休業日:毎週水曜日、年末年始(12/29~1/3)

編集後記

6月30日はサポセンの誕生日です!99年に開館したサポセンは、9年目に突入しました。現在、図書コーナーではサポセンの誕生日特集を開いています。サポセンの歴史がわかる本から、仙台で頑張る団体が発行した図書も置いてありますので、ぜひご覧ください。

(本田 ふみ)

日付が変わって7月1日はシニア活動支援センターの誕生日。オープンを記念して、「定年後のセカンドライフを楽しむ」と題したシンポジウムも開催されますよ。詳しくはシニア活動支援センター(←参照)へ。

(千葉 やす恵)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間 平日/午前9時~午後10時

日曜・祝日/午前9時~午後6時

● 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

6/27(水) 7/25(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

○貸 室

(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。

○ロッカー(有料)レターケース(無料)事務用ブース(有料)

○交流サロン

少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)

○情報サロン

市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の閲覧・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)

○印刷作業室

印刷機(紙持ち込み/1 製版100円、紙折り機(無料)
コピー機(1 枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行 行:仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2007年6月20日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

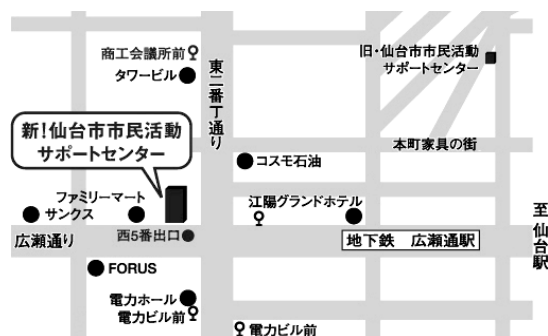
編集人:本田ふみ 千葉やす恵

★古紙100%使用再生紙を使用しています。

★大豆油インキを使用しています。



■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[バス]商工会議所前下車徒歩3分

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

□当施設に駐車場・駐輪場はございません。

お車や自転車で来館される方は、

周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。